

学校の様子

3学期がスタートして、早1ヶ月が経ちました。毎年思うのですが、3学期は他の学期と比べて時の流れが早く感じます。さて、各学年の様子をお伝えしたいと思います。

まず3年生です。3年生は受験生としての冬を迎えていました。1/10(日)に入試が始まり、私立高校と国立高専の推薦入試が終わりました。明日は公立高校自己推薦入試、その後、国立高専一般入試、そして3月に公立高校一般入試を受験します。健康面に留意しながら、休むことなく登校し、受験対策を中心とした学習に取り組んでいます。受験の前には私も参加して面接指導を行っていますが、予想される質問に対して自分の意見をしっかりと準備し、面接官に堂々と答えることができています。受験に向けた3年間の長いマラソンもゴール地点が見えてきました。「受験は0%もなければ、100%もない」と言われます。だからこそ、自分の進路目標に向かって最後まで走り切らなければなりません。受験生として、しんどくて苦しいのは皆同じ。自分に負けることなく、頑張ってくれることを期待しています。

次に、2年生は2/16(月)に行う立志式に向けての準備を進めています。1/20(火)の総合的な学習の時間に、ラーニングで立志式とは「中堅学年にあたる2年生が、日本で古くから行われていた『元服』にあたる儀式を行い、一人の人として『志』を立て、人生の指針と強い意志を表明し、前向きに自己の将来を設計しようとする力を培う式」であるとの説明を受け、漢字を選び、決意文を考えました。1/23(金)には色紙に文字を清書しました。当日は修学旅行周知会もありますので、保護者の皆様は来校し、子どもたちの決意をぜひ聴いてあげてください。

最後に、1年生は3学期早々の1/12(月)から3日間、五色台で集団宿泊学習を行いました。出発前日の荷物点検の日が大寒波で、翌日に出発できるかどうか心配しましたが、無事出発することができました。1日目は施設到着後に避難訓練、午後から焼き板づくりと自然センター内のクイズラリー、夜は天体観測と展示室見学を行いました。展示室前の両生類や水生昆虫に意外と興味を示すのが仁尾中生の特徴です。2日目は夕方まで2コースに分かれて野外体験学習、夜にキャンドルサービスを行いました。国分寺コースの人は、遍路道の途中にある「景子ちゃんのお接待所」に連れて行ってもらいました。その場所は、実は本校と関係が深い場所です。それは、そのお接待所を設置したのが香川掃除に学ぶ会の方で、毎年本校でのトイレ掃除に来てくれています。さらに1年前には、その方の紹介で景子ちゃんのお父さんである、鈴木中人さんから全校生が話を聴かせてもらいました。図書室にも関連する本がたくさんあるので、子どもたちには改めて紹介したいと思います。学校とは遠く離れていますが、本校と関係が深い場所であることを知っておいてください。【裏面で詳しく紹介】最終日は、施設点検を受けた後に、野外炊事で打ち込みうどんを作りました。温かい食事が食べられることへの感謝とともに、自分たちで作ったうどんは格別においしく感じたことでしょう。出発前に「友だちの新しい良いところを見つけてください」とお願いしていましたが、退所式で問うと全員が挙手していました。私も3日間行動を共にするなかで、普段よりも会話を増やし、多くの子どもたちの良さを見つけることができました。あとは、自分たちが学び、気付いて学校や日常生活にもち帰ったものを、いかに自分の力に変えられるかだと思います。



接待所設置、つながる「いのちのご縁」

鈴木中人は、長女（景子）の二十三回忌を終えて、四国歩きお遍路を始めていた。友人の國方卓（香川県在住）は、鈴木のブログで香川入りすることを知った。

國方は言う。「景子ちゃんの声が聞こえてきたんですよ。『がんばって歩き遍路をしているお父さんに、ありがとう、結願（けちがん）までもう少しと伝えて』と。香川遍路道で一番山深く、必ず通る要所の十九丁でサプライズ接待をしようと決めました！」

2021年10月18日。國方は、缶ジュース、看板、自由帳、ゴミ箱を持って遍路道を登った。十九丁のベンチに一日臨時接待所を設けた。自由帳に思いを綴り下山した。しかし、先を急いだ鈴木は、「こんな山中に接待所？ありがたいなあ」とチラ見しつつ、休まずに通過してしまった。

「十九丁をスルーなんて大びっくり。こうなったら、次の日の札所で待ち受けて、名物・讚岐うどんを持参して接待するぞ！です」（國方）。刑事魂で、通過場所と時間を割り出し、84番札所屋島寺で張り込み。納経所に着くと同時に、鈴木とばったり＆びっくり！さらにびっくりが連続。

「なんと、十九丁で缶ジュースを飲んだお遍路さんとも出会ったのです。『あの場所でお接待、力をもらいました。ありがとうございました』との言葉に、もう胸がいっぱいです…」（國方）。午後、一日接待所の撤収に十九丁に行った。自由帳には「いのちの思い」が溢れていた。

「突然、山の中でお接待。元気をもらいました」「こんな接待は初めて。香川最高です」「景子ちゃん、みなさん、ありがとう」「いのちを癒す接待所です」。その時、通りかかったお遍路さんは「感動しました。ずっとあってほしい」と。「じゃあ、月末まで続けてみようか、です」（國方）

そして、接待所に込めた「いのちの祈り」を願い文として綴った。接待所に、願い文や「いのちの授業」の絵本なども置いた。その思いに続々と心ある仲間が集ってくれた。小藪光秀さん、数延貞光さん…。「僕も登りジュースや空き缶を整理します」「掃除道具は、掃除に学ぶ会で準備します」などと。さらに現場を管理する五色台少年自然センターの所長さんは、「鍵山秀三郎先生のお名前を伺ったら応援しない訳にはいかんでしょう」。

2022年9月17日。願い文の石碑プレートが置かれる。書は、大書道家・岡本光平先生の喜捨（きしや）による揮毫（きごう）。81番札所白峯寺様、82番札所根香寺様、お遍路交流サロン様、横山宝元堂さん、坂本石材店さん、高野山讃岐別院様、接待所の世話人…。たくさんの方の喜捨と祈りによって…。

「全てのご縁がお大師様のお声に感じます。できることで続けていきます。お遍路さんとのご縁を通じて、いにしえの巡礼地から願いが叶うことを祈ります」（國方）。

